

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鹿児島純心女子短期大学
設置者名	学校法人鹿児島純心女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
生活学科	生活学専攻	夜・通信	3	0	4	7	7	
	こども学専攻	夜・通信			4	7	7	
	食物栄養専攻	夜・通信			4	7	7	
英語科		夜・通信		0	4	7	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「実務経験のある教員等による授業科目一覧」で案内

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鹿児島純心女子短期大学
設置者名	学校法人鹿児島純心女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/ 本ページの「情報の公表」において「役員等名簿」として公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	R7.5.29～ R11年度	財務
非常勤	弁護士	R7.5.29～ R11年度	法務
(備考) 任期の終期は、4年以内に終了する会計年度のうち 最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鹿児島純心女子短期大学
設置者名	学校法人鹿児島純心女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ① 教務課及びカリキュラム委員により10月までに「シラバス作成要領」を見直し、改善案をカリキュラム委員会に提案・審議し、新年度のシラバス作成のためのマニュアルを完成させる。 ② 11月又は12月の教授会において、カリキュラム委員会で承認された「シラバス作成要領」を報告・配布し、シラバス作成を依頼。 ③ 2月、シラバスの第三者チェックを実施。 ④ 3月中旬までにシラバスの第三者チェックで指摘された箇所を訂正し、次年度入学生のシラバスを学内外に公開する。	
授業計画書の公表方法	公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「シラバス検索」で案内
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ① ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ツリーを策定し、各ディプロマ・ポリシーのもとに関連科目を配置する。 ② ディプロマ・ポリシーのもとに配置された科目の到達目標を設定し、その到達目標に対する到達度を計るための評価の方法等を定めてシラバスに記載する。 シラバスに記載した成績評価方法及び成績評価基準は単位認定規程に基づいている。 ③ ①及び②については、学生便覧や履修説明会等で学生に案内するほか、初年次教育科目「アカデミックリテラシー」の中で説明している。 ④ 以上の取組により学期末に単位認定試験を実施し、単位認定を行っている。 単位認定試験実施後、科目担当者は、自身が付けた学生の成績評価と履修者の自己評価を比較、また、授業アンケートの結果を参考に授業改善を図る。各学科・専攻・コースは、ナンバリング、科目の水準及び成績評価をもとに科目間の成績評価基準の平準化に向けて検証を実施する。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

① functional Grade Point Average 方式に基づき、履修登録した科目の成績評価に対して GP(Grade Point)を付与し、単位数当たりの平均値を GPA(Grade Point Average)として表記する。

② 成績評価に付与する GP は次のとおり算出する。

算出方法 $(100 \text{ 点満点の素点} - 55) \div 10 = GP$

ただし、 $GP < 0.5$ は $GP=0.0$ とする。

また、成績評価において素点がない認定科目については GP を付与せず、GPA 対象外とする。失格となった科目は、GP「0」を付与する。再試験合格で「可」の評価を得た場合は、GP「0.5」を付与する。

判定	成績評価		GP
合格	秀	90 ～ 100点	3.5～4.5
	優	80 ～ 89点	2.5～3.4
	良	70 ～ 79点	1.5～2.4
	可	60 ～ 69点	0.5～1.4
不合格	不可	0 ～ 59点	0

③ GPA は次のとおり算出する。

$GPA = (\text{履修科目の GP} \times \text{単位数}) \text{ の総和} \div (\text{全履修科目の総単位数})$

GPA は、小数点以下第 3 位を四捨五入する。

④ 学期末に GPA を記載した「学業成績・単位修得通知書」と GPA の計算方法を案内した資料を学生の保証人(保護者等)宛に郵送している。

なお、学生は、教務システムにログインし自分の成績状況を確認する際、GPA も把握することができる。同様に教職員も GPA を確認できる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

公式サイトで学内外に公表
<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
 本ページの「履修関係」の「GPA の算出方法」で案内

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

◇卒業認定・学位授与の方針

次の要件を満たした者に対して、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与する。

(要件)

卒業認定・学位授与の方針に掲げた学修成果を身に付けるために編成されたカリキュラム(教育課程)に則り、本学が定める期間在学して所定の科目を履修し、予め定めた成績評価基準に基づき単位を修得した者

学生が卒業時、身に付けるべき資質・能力は次のとおりである。

1 全学共通

① 知識・技術・理解

【豊かな人間性と共生の精神】

・豊かな人間性と国際人として必要な教養を身に付け、共生の社会を築いていくことができる。

② 汎用的技能

【人生を切り開く力】

・社会的・職業的活動に必要な力を身に付け、社会や環境の変化に柔軟に対応して自らの人生を切り開くことができる。

2 生活学科生活学専攻

① 知識・技術・理解

【ビジネス実践力】

・企業・組織の仕組みや振る舞いを理解するための基礎知識を身に付けていて、実務に活用できる。

② 汎用的技能

【デザイン思考】

・ユーザーの視点でデザインした企画やサービスをデータに基づいて評価・改善し、分かりやすく魅力的に提案できる。

③ 態度・志向性

【挑戦し探究する姿勢】

・自らの発想を実践でき、実践から学びを得て、次の実践に活かすことができる。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【プロジェクト実行力】

・プロジェクトの成功のために自分の役割を果たし、チームを支援することができる。

3 生活学科こども学専攻

① 知識・技術・理解

【保育・教育の基礎理解】

・保育・教育の基礎となる理論や考え方を理解している。

【子ども理解】

・保育や教育の対象について、多角的に理解している。

【保育・教育の実践力】

・保育・教育の実践力を身に付けている。

【保育・教育の職務理解】

・保育者の職務を多面的に理解している。

② 汎用的技能

【企画力・観察力・実行力】

・実践的な場に立って、子どもをよく観察して、提供すべき手立てを企画し実行する力を身に付けている。

③ 態度・志向性

【探究心と自己研鑽力】

・広く社会や時代の変化に目を向けて、子ども理解を深め、保育者の課題をつね

に探究し努力する姿勢が身に付いている。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【こどもの未来を創造する力】

・保育者として次世代を担う子ども達の健やかな育ちを支援するための思考力と対話力を身に付けている。

4 生活学科食物栄養専攻

① 知識・技術・理解

【基盤知識】

・栄養士の専門性を修得するために必要な科学に関する基礎知識を身に付けている。

【専門知識・技術と理解】

・栄養士の専門性に関する幅広い知識と技能を身に付けている。

【栄養士業務の実践力】

・栄養士の業務内容と職務を理解して実践することができる。

② 汎用的技能

【情報を収集、整理して伝える力】

・栄養士業務に必要な情報を整理してプレゼンテーションする能力が身に付いている。

③ 態度・志向性

【協働する姿勢】

・食に関する業務に主体性と責任感をもって協働して取り組む姿勢が身に付いている。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【食を通じて社会に尽くす力】

・社会における食に関する様々な課題を見出し、解決することができる。

5 英語科

① 知識・技術・理解

【実践的英語コミュニケーション能力】

・生活や仕事で活用できる実践的な英語コミュニケーション能力が身に付いている。

【言語理解と異文化理解】

・世界の多様な文化や言語について幅広く理解するための基礎知識を身に付けており、グローバルに通用する論理展開ができる。

② 汎用的技能

【情報・実務能力】

・グローバルな職場環境に対応できる専門的な情報活用能力や実務能力を身に付けている。

③ 態度・志向性

【協働し学び続ける姿勢】

・互いの良さを生かして協働し、探求し続け、自身を向上させることができる。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力 【国際的センスと社会への貢献】 ・国内外の諸問題の解決に向けて調査研究し、その結果を英語で発信すると共に、地域社会及び国際社会への貢献に生かすことができる。 ◇卒業認定に関する実施状況 2月末に卒業判定会を開催している。 卒業判定のための資料として、卒業認定・学位授与の方針に基づき配置した科目の到達目標に対する到達度を計った成績評価により認定した学生別の修得単位数一覧、学生別 GPA・GPA の分布状況を配布している。 なお、卒業要件は、学則第 12 条に総合人間科目及び専門教育科目から合計 62 単位以上を修得しなければならないと規定している。このことを確認した上で学長が卒業を認定している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鹿児島純心女子短期大学
設置者名	学校法人鹿児島純心女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/wp-content/uploads/2025/06/R06report-1.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/wp-content/uploads/2025/06/R06report-1.pdf
財産目録	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/wp-content/uploads/2025/06/R06report-1.pdf
事業報告書	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/wp-content/uploads/2025/06/R06report-1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/wp-content/uploads/2025/06/R06report-1.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/assessment/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/assessment/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生活学科生活学専攻
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「人材の養成及び教育研究の目的」で案内)
(概要) 次のとおり、「学科・専攻における人材の養成及び教育研究の目的に関する規程」に定めている。 生活学科生活学専攻においては、伝統的価値観・文化・手法と最新のテクノロジーの融合・共存を図り、現代的課題を解決して人々の生活に彩りと豊かさをもたらす方策を教育研究の対象とする。 また、自らのキャリアを設計・構築し、社会生活及び日常生活を自律的に経営することができる市民として、強く、しなやかに時代を生き抜く人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)
(概要) ① 知識・技術・理解 【ビジネス実践力】 ・企業・組織の仕組みや振る舞いを理解するための基礎知識を身に付けていて、実務に活用できる。 ② 汎用的技能 【デザイン思考】 ・ユーザーの視点でデザインした企画やサービスをデータに基づいて評価・改善し、分かりやすく魅力的に提案できる。 ③ 態度・志向性 【挑戦し探究する姿勢】 ・自らの発想を実践でき、実践から学びを得て、次の実践に活かすことができる。 ④ 統合的な学習経験と創造的思考力 【プロジェクト実行力】 ・プロジェクトの成功のために自分の役割を果たし、チームを支援することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

① 知識・技術・理解

- ・ビジネスの基礎知識や現代的課題に関する基本的な知識を体系的に理解し、実務に活用できるよう教育課程を編成する。
- ・良識ある女性としての教養を培うため、地域社会や伝統的文化のもつ意味や美しさ、歴史的・社会的背景等を学ぶ科目を配置する。

② 汎用的技能

- ・データの基本的な取り扱いを理解し、考えや判断の妥当性を説明できるようになるための科目を配置し、実施する。
- ・言語表現や視覚的表現の技能を実践的に学ぶ科目を配置し、受け手のことを十分に意識して工夫し、表現する能力を高めることを意識して実施する。
- ・キャリア選択の状況に応じて必要な専門的知識やスキルを身に付けることができるよう配慮する。

③ 態度・志向性

- ・自身の成長に対して継続的な関心を持ち、学びを深めることができるよう意識して、科目を配置し、実施する。
- ・既存の枠を超えて発想し、大胆に挑戦する姿勢を養うために、制作活動を実施する。
- ・周囲の評価やフィードバックから着想を得て課題を見つけ、工夫改善を続ける力を高められるよう、実践と共有の機会を活用する。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・プロジェクト活動を実践する場を設け、互いの強みや専門性を活かした解決策・アプローチを考え続けて、最後までやりきる力を高めることを意識して実施する。
- ・リーダーシップの多様なあり方に触れて理解を深めるため、地域で活躍するリーダーや課題解決に取り組む企業・団体から直接学ぶ機会を設ける。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

① 知識・技術・理解

- ・最新のテクノロジーや服飾文化、美術・工芸に興味・関心があり、幅広い知識を身に付けたい人。
- ・専門的な知識と実務能力を身に付け、ビジネス社会で活躍することを希望する人。

② 汎用的技能

- ・基礎的な文章力や読解力を身に付けていて、自分の考えを言葉で伝えることができる人。
- ・互いの考えや個性を理解し、尊重しようとする人。

③ 態度・志向性

- ・チームのために自分を磨こうとする意志を持つ人。
- ・目標達成に向けてあきらめずに挑戦する人。

学部等名 生活学科こども学専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「人材の養成及び教育研究の目的」で案内)
(概要) 次のとおり、「学科・専攻における人材の養成及び教育研究の目的に関する規程」に定めている。 生活学科こども学専攻においては、「子ども」と「子どもを取り巻く環境」を学際的に教育研究の対象とする。 また、「いのち」を尊ぶ心を育むと共に、子どもの健全な成長・発達を支援するための知識・技能、及び子育て支援に関する知識・技能を学修し、地域社会で貢献できる保育士・幼稚園教諭などの保育者養成を目標とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)
(概要) ① 知識・技術・理解 【保育・教育の基礎理解】 ・保育・教育の基礎となる理論や考え方を理解している。 【子ども理解】 ・保育や教育の対象について、多角的に理解している。 【保育・教育の実践力】 ・保育・教育の実践力を身に付けている。 【保育・教育の職務理解】 ・保育者の職務を多面的に理解している。 ② 汎用的技能 【企画力・観察力・実行力】 ・実践的な場に立って、子どもをよく観察して、提供すべき手立てを企画し実行する力を身に付けている。 ③ 態度・志向性 【探究心と自己研鑽力】 ・広く社会や時代の変化に目を向けて、子ども理解を深め、保育者の課題をつねに探究し努力する姿勢が身に付いている。 ④ 統合的な学習経験と創造的思考力 【こどもの未来を創造する力】 ・保育者として次世代を担う子ども達の健やかな育ちを支援するための思考力と対話力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

① 知識・技術・理解

- ・ 保育者モデルとして示される「反省的实践家」を養成するために、螺旋構造の学び（学び、深め、自分のものにするという過程）を支援する教育課程を構成する。
- ・ 次世代を担う子ども達の健やかな育ちを支援できる保育者として、「子どもの最善の利益」を第一に考えることのできる価値観を養う。
- ・ 対人援助の現場である保育の現場で直接活かせる技術力を養う。

② 汎用的技能

- ・ コミュニケーション・スキルやマナーを養うために、子どもや保護者と直接関わる機会を積極的に取り入れた教育課程を構成する。
- ・ 子どもや保護者と直接関わる際に発生する問題に対し、適切に対応できる力を養う。

③ 態度・志向性

- ・ 自己学習力と論理的思考能力を養うために、保育者としての課題を探究し続ける教育課程を構成する。
- ・ 保育者の責務を自覚し、真摯に学び続けようとする姿勢を涵養する。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・ 筋道を立てて考える力、根拠に基づき判断する力を習得させる。
- ・ 多面的なものの見方を養うために、こども学の学びを皆で分かち合う教育課程を構成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

① 知識・技術・理解

- ・ 基礎的な文章読解力・表現力等、高校卒業程度の学力を身に付けている人。
- ・ 保育の専門知識・技能を発展的に学ぶ意欲を持った人。
- ・ 他者と協調して地域社会に貢献する希望を持った人。

② 汎用的技能

- ・ 「いのち」を大切にする心を持ち、子どもの成長と発達に関する知識・技術の習得に強い意欲を持つ人。

③ 態度・志向性

- ・ 多様な人々と協働して学ぶ姿勢がある人。
- ・ 実習・演習などに積極的に取り組む意欲のある人。

学部等名 生活学科食物栄養専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「人材の養成及び教育研究の目的」で案内)
(概要) 次のとおり、「学科・専攻における人材の養成及び教育研究の目的に関する規程」に定めている。 生活学科食物栄養専攻においては、健康を支える食及び食に関わる現代社会の様々な課題を教育研究の対象とする。 また、食に関する総合的、体系的な知識と技術を学修し、郷土の食文化や食育に関する専門性を深めて、食のエキスパートとして奉仕の心を持って地域社会に貢献できる栄養士・栄養教諭の養成を目標とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)
① 知識・技術・理解 【基盤知識】 ・栄養士の専門性を修得するために必要な科学に関する基礎知識を身に付けている。 【専門知識・技術と理解】 ・栄養士の専門性に関する幅広い知識と技能を身に付けている。 【栄養士業務の実践力】 ・栄養士の業務内容と職務を理解して実践することができる。 ② 汎用的技能 【情報を収集、整理して伝える力】 ・栄養士業務に必要な情報を整理してプレゼンテーションする能力が身に付いている。 ③ 態度・志向性 【協働する姿勢】 ・食に関する業務に主体性と責任感をもって協働して取り組む姿勢が身に付いている。 ④ 統合的な学習経験と創造的思考力 【食を通じて社会に尽くす力】 ・社会における食に関する様々な課題を見出し、解決することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)
(概要) ① 知識・技術・理解 ・専門教育科目群（社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営、その他）を配置して、栄養士への理解を深め専門知識と技術を修得する。 ・栄養教諭と教職に関する科目を配置して、栄養教諭に必要な専門知識と技術を修得する。 ・郷土の食材や料理への理解を深め関連する専門知識と技術を修得する。

・学外実習を配置して、社会人としての資質を養成し栄養士への理解を深める。
② 汎用的技能 ・実験・実習・演習科目を配置して、実践的な思考力・判断力・表現力を養う。 ・コンピュータ等を活用した演習を配置して、栄養士業務などの実社会で求められる情報活用能力を高めるとともに、情報モラルの育成を図る。
③ 態度・志向性 ・実習演習科目を配置して、グループワークを通じて協働する姿勢を養う。 ・多様な専門教育科目を通じて、学びを継続する意義と専門性の深さを理解する。
④ 統合的な学習経験と創造的思考力 ・現代社会の食に関する様々な課題について取り上げ、理解を深めるとともに課題解決に向けた専門性を修得する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)
(概要) ① 知識・技術・理解 ・食と栄養、健康に関心があり、栄養士の専門性に関する幅広い学習に取り組む意欲を持っている人。 ② 汎用的技能 ・国語の基礎力や数学の基礎計算力を身に付けており、さらに専門性を深める意欲のある人。 ③ 態度・志向性 ・協調性を備え主体的に学び続ける姿勢を身に付ける意欲のある人。

学部等名 英語科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「人材の養成及び教育研究の目的」で案内)
(概要) 次のとおり、「学科・専攻における人材の養成及び教育研究の目的に関する規程」に定めている。 英語科においては、実践的な英語コミュニケーション能力やグローバルな職場環境にも対応できる実務能力の育成を教育研究の対象とする。 また、異文化体験イベントや海外研修・留学等を通して、英語圏における文化・習慣を学び国際人としての感覚を養い、英語能力を生かして地域社会に貢献する人材の養成を目標とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

① 知識・技術・理解 【実践的英語コミュニケーション能力】 ・生活や仕事で活用できる実践的な英語コミュニケーション能力が身に付いている。 【言語理解と異文化理解】 ・世界の多様な文化や言語について幅広く理解するための基礎知識を身に付けており、グローバルに通用する論理展開ができる。 ② 汎用的技能 【情報・実務能力】 ・グローバルな職場環境に対応できる専門的な情報活用能力や実務能力を身に付けている。 ③ 態度・志向性 【協働し学び続ける姿勢】 ・互いの良さを生かして協働し、探求し続け、自身を向上させることができる。 ④ 統合的な学習経験と創造的思考力 【国際的センスと社会への貢献】 ・国内外の諸問題の解決に向けて調査研究し、その結果を英語で発信すると共に、地域社会及び国際社会への貢献に生かすことができる。	教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)
(概要) ① 知識・技術・理解 ・実践的な英語コミュニケーション能力を身に付けるために、体験型英語プログラムを提供する。アクティブラーニングによる少人数制参加型授業や習熟度別クラス編成を通して、使える英語を育成するため、英語で行われる科目を配置する。 ・言語の基礎知識や文化的な背景を学び、基本的なコミュニケーション能力を育成するために、英語の言語的特徴やその指導法に関する科目並びに英語以外の外国語に関する科目を配置する。 ・郷土や我が国の伝統・文化を伝えるとともに、異文化に対する理解を深め、グローバルな社会で通用する人材を養成するため、日本や世界の地域研究等の科目を配置し、外国人学生との交流や海外研修及び海外留学の機会を設ける。 ② 汎用的技能 ・情報モラルの育成を図るとともに、実社会で求められる実践的情報活用能力を高めるため、コンピュータ等を活用した演習科目を配置する。 ・グローバルな社会に対応できるビジネス、または、教職に係る実務能力を育成するために、実践的な学びの場を提供し、実社会で必要となる知識を学ぶ科目を配置する。 ③ 態度・志向性 ・他と協働し、挑戦しようとする姿勢を養うために、様々な英語活動や異文化体験イベントをはじめ、体験型グループ学習をとおして、実践的に学ぶ科目を配置する。	

・実社会が求める人物像を具体的に感じ取り、自らの生き方に生かすとともに、生涯を通じて学びを継続させる意欲や、企画力・表現力・行動力、さらには逞しい気力を磨くために、インターンシップやボランティアマインドなどを体験的に学べる科目を配置する。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

・問題解決力を高めるために、国内外の様々な問題を取り上げ、その解決策を考え議論し発表する科目を配置する。
・地域社会や国際社会への貢献を図るために、学内外の国際交流イベントに積極的に参画するとともに、統合的な学習経験を積むことができる科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

① 知識・技術・理解

・言語や文化に興味・関心があり、英語が好きで、さらに英語力を伸ばしたいと思う人。
・異文化を理解し、実践的な英語力を身に付け、グローバルな社会で活躍したい人。

② 汎用的技能

・基礎的な文章力や読解力を身に付けている人。
・社会で必要とされる職業的知識と専門的スキルを身に付けることに意欲のある人。

③ 態度・志向性

・英語を学ぶ意欲があり、主体的に英語力を高める努力をする人。
・多様な人々と積極的にコミュニケーションをとり、問題解決に向けてあきらめずに挑戦する人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/joho/ 本ページの「2 学科構成等について」で案内

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
生活学科	－	10 人	8 人	2 人	0 人	0 人	20 人
英語科	－	3 人	1 人	2 人	0 人	0 人	6 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		39 人					40 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/cust-staff/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
自己点検・評価委員会、教務委員会、カリキュラム委員会が中心となって、FD 研修会、公開授業、授業アンケート等を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活学科	145 人	83 人	57.2%	290 人	176 人	60.7%	0 人	0 人
英語科	40 人	31 人	77.5%	80 人	78 人	97.5%	0 人	0 人
合計	185 人	114 人	61.6%	370 人	254 人	68.6%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活学科	95 人 (100%)	7 人 (7 %)	87 人 (92 %)	1 人 (1 %)
英語科	30 人 (100%)	1 人 (3 %)	25 人 (84 %)	4 人 (13 %)
合計	125 人 (100%)	8 人 (6 %)	112 人 (90 %)	5 人 (4 %)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				

【主な進学先】 鹿児島純心大学人間教育学部教育・心理学科 2 名，鹿児島純心大学看護栄養学部健康栄養学科 2 名，鹿児島大学教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース，福岡女学院大学国際キャリア学部国際英語学科，中村学園大学栄養科学部栄養科学科，尚絨大学生活科学部栄養科学科
【主な就職先】 【公務員】 鹿児島県公立学校教員（中学校英語）2名，鹿児島県職員（教育事務），鹿児島市職員（保育士）2名，霧島市職員，航空自衛隊自衛官候補生……………計7名
【航空関係】 日本エアコミューター(CA)，羽田旅客サービス，JALスカイ2名，ANAエアポートサービス，ANA福岡空港2名……………計7名
【金融・J A 関係】 日本銀行鹿児島支店，鹿児島銀行5名，南日本銀行，鹿児島相互信用金庫……………計8名
【ホテル関係】 星野リゾート，城山ホテル鹿児島2名，いわさきグループ……………計4名
【その他の企業等】 京セラ川内，九電送配サービス鹿児島，南国殖産2名，MBC開発，富士フイルムビジネスイノベーションジャパン2名，アルプスシステムインテグレーション2名，島津興業（仙巖園），明石屋，財宝，NBCメタルメッシュ，パーツ精工鹿児島工場，アマゾンジャパン，フォーバル，Wiz3名，ユウシン，マナーハウス島津重富荘，プライムアシスタンス，梅月堂，羽田エアポートセキュリティー2名，鹿児島医療生活協同組合，米盛病院，中央病院，大隅鹿屋病院，うのき眼科，池田病院，ナーシングホームひだまり，TCB東京中央美容外科，じあい会，全国和牛登録協会鹿児島県支部，大口明光学園，鹿児島市水族館公社
【栄養士関係】 日清医療食品9名，一富士フードサービス，コスモス認定こども園，しらゆきこども園，はるやま森の保育園，清水丘保育園
【幼稚園教諭・保育士関係】 鹿児島県社会福祉事業団，鹿児島市社会事業協会 2 名，武岡幼稚園，ひまわり幼稚園，鹿児島幼稚園，つばき幼稚園，伊敷幼稚園 2 名，はなぶさ幼稚園，やはた幼稚園，伊集院幼稚園，白百合幼稚園，こうこく保育園 2 名，たがみ台保育園，風と光保育園，清光保育園，さとのもり保育園，二葉保育園，光明禅寺保育園，ちはなこども園，日当山総合こども園，吹上中央こども園，高山こども園
（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
生活学科	101 人 (100%)	94 人 (93.1%)	1 人 (1.0%)	6 人 (5.9%)	0 人 (0%)
英語科	30 人 (100%)	30 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
合計	131 人 (100%)	124 人 (94.7%)	1 人 (0.7%)	6 人 (4.6%)	0 人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
① 教務課及びカリキュラム委員により 10 月までに「シラバス作成要領」を見直し、改善案をカリキュラム委員会に提案・審議し、新年度のシラバス作成のためのマニュアルを完成させる。
② 11 月又は 12 月の教授会において、カリキュラム委員会で承認された「シラバス作成要領」を報告・配布し、シラバス作成を依頼。
③ 2 月、シラバスの第三者チェックを実施。
④ 3 月中旬までにシラバスの第三者チェックで指摘された箇所を訂正し、次年度入学生のシラバスを学内外に公開する

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
① ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ツリーを策定し、各ディプロマ・ポリシーのもとに関連科目を配置する。
② ディプロマ・ポリシーのもとに配置された科目の到達目標を設定し、その到達目標に対する到達度を計るための評価の方法等を定めてシラバスに記載する。 シラバスに記載した成績評価方法及び成績評価基準は単位認定規程に基づいている。
③ ①及び②については、学生便覧や履修説明会等で学生に案内するほか、初年次教育科目「アカデミックリテラシー」の中で説明している。
④ 以上の取組により学期末に単位認定試験を実施し、単位認定を行っている。 単位認定試験実施後、科目担当者は、自身が付けた学生の成績評価と履修者の自己評価を比較、また、授業アンケートの結果を参考に授業改善を図る。各学科・専攻・コースは、ナンバリング、科目の水準及び成績評価をもとに科目間の成績評価基準の平準化

に向けて検証を実施する。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
生活学科	生活学専攻	62 単位	有・無	25 単位
	こども学専攻	62 単位	有・無	25 単位
	食物栄養専攻	62 単位	有・無	25 単位
英語科		62 単位	有・無	25 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「GPA の算出方法」で案内		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/joho/ 本ページの「9 入学者数、学生数、留学者数、卒業者数、資格取得・検定合格状況、学位授与数、就職者数について」及び「統計情報」で案内		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/joho/ 本ページの「7 教育環境について」で案内
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
生活学科	生活学専攻 こども学専攻	415,000 円	200,000 円	510,000 円	実験実習費 65,000 円 教育充実費 420,000 円 図書費 25,000 円
	食物栄養専攻	415,000 円	200,000 円	525,000 円	実験実習費 80,000 円 教育充実費 420,000 円 図書費 25,000 円
英語科		440,000 円	200,000 円	499,000 円	実験実習費 44,000 円 教育充実費 430,000 円 図書費 25,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学支援について、次の取組を実施している。 ① 全学科・専攻において、入学試験合格者に対する「入学前教育」と「入学前ガイダンス」を実施し、大学での学びに対する理解を図る。 ② カリキュラムにおいて、新入生全員が履修する「アカデミックリテラシー」を開講し、同科目をとおして初年次教育を実施 ③ 入学時アンケート、進級時アンケート結果等に基づくクラス担任による面談の実施

④ ジェネリックスキルの客観的把握のため GPS-Academic テストを導入し検証データとして活用
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ① カリキュラムにおいて、「キャリアガイダンス」「キャリアデザイン」等のキャリア教育科目を開講 ② キャリア支援課を設けて専任スタッフ 3 名を配置し、進路選択に係る支援を実施 ③ 進学相談室を設けて、編入学のための試験対策等を支援
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ① 入学前の相談体制を募集要項や公式サイトで案内 ② 学生便覧に心身の健康等に係る相談窓口を掲載。また、入学式後のオリエンテーションにおいても紹介。 ③ 「障がいのある学生への支援に関する基本方針」「障がいのある学生への支援規程」「障がいのある学生への支援委員会規程」を定め、組織的に支援を実施

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：公式サイトで学内外に公表
<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/structure/>
 本ページから「各学科・専攻別」に案内

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F246310111698
学校名（〇〇大学 等）	鹿児島純心女子短期大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人鹿児島純心女子学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		48人（ ）人	46人（ ）人	49人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	19人	22人	
	（うち多子世帯）	（ ）	（ ）	
	第Ⅱ区分	13人	12人	
	（うち多子世帯）	（ ）	（ ）	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ ）	（ ）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）			
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ ）人
合計（年間）				49人（ ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）		0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。		—	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	—	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。